

17. エゾノウサギの防除

1. 試驗相當者

北海道支庁保護部野鳥研究室 柴田 義春，上田 明一

44

山本時夫

2. 試驗目的

エゾノウサギは狩猟鳥獣であるため、その防除法は種々制約されている現状にあり、また林木の被害もきわめて大きい。このため合理的な防除対策を検討する必要がある。従って本種の季節的生息場所、生息密度、行動などを調査し、防除法の基礎的資料をうる。

3. 昭和44年度の経過と与られた結果

カラマツ造林地における野兔の生息状態と密度の調査について、主として一定地域内の野兔の行動(移動と侵入)を6~12月にわたり標識方法によって調査した。この結果、春に出現した個体が、秋に再び出現することはみられなかった。したがって夏季といえども一定地域内における野兔の生息は絶えず新しい個体によっておきかわり個体間の移動と侵入がはげしく行なわれていることが認められた。

生息個体数の算定法の基礎試験として生捕り罠による捕獲法と雪上に残される足跡数を組合せ、両者の近似性の検討を行なった。

4. 昭和45年度の試験計画

生息環境の解析調査はカラマツの効令造林地において45年6月より46年3月までの期間、生捕り罠を用い調査を行なう。

また生息個体数の算定法の試験は冬季に足跡により算定法を組み入れて実施する。